

東日本大震災子ども支援募金

# ユネスコ協会 就学支援奨学金 レポート2020



公益社団法人  
日本ユネスコ協会連盟

# 子どもたちの夢を 未来へとつなぐ 学びの支援



奨学生(高校1年生)  
5ページに  
インタビュー記事を掲載



公益社団法人  
日本ユネスコ協会連盟  
会長

佐藤 美樹

## 震災から10年目を迎えて

2021年で、東日本大震災から10年の月日が経ちました。

震災で犠牲となられた方々に改めて深く哀悼の意を表しますとともに、いまなお不自由な生活をおくられている皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

日本ユネスコ協会連盟では、この10年間、皆さまからの温かいご支援により、被災直後の緊急支援に始まり、奨学金事業、文化・コミュニティ支援など、幅広く被災地の復興を支えることが出来ました。ご協力いただいたすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。

とはいえ、まちの復興はある程度進んだものの、コロナ禍という困難も重なり、現在も被災により経済的に困窮されているご家庭は少なくありません。私たちは、子どもたちが将来に夢や希望を抱き、安心して学び続けられるように、今後も二つの奨学金事業を継続してまいります。

2020年度に実施した被災地支援をご報告いたしますので、ご高覧いただけますと幸いです。引き続き、皆さまからの変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 2020年度実績

受給者数 / 508名

支援地域 / 岩手県 宮城県 福島県

奨学金給付額 / 1億2228万円

## 支援概要

### 対象者

津波による家屋の流失・損壊や原発事故の影響による避難などの理由で経済状況が悪化した家庭の、高校進学を希望する中学3年生。

※震災により保護者を亡くした生徒を除きます。

### 給付額と期間

奨学生一人当たり月額2万円を返還不要で3年間給付します。

※中学3年次から高校2年次まで。

### 対象地域

岩手、宮城、福島 の3県で被害の大きかった市町村を特定して実施しています。

### 2011年度からの累計受給者数

3468名(岩手・宮城・福島 の3県、計25市町村)

東日本大震災子ども支援募金

## ユネスコ協会 就学支援奨学金 レポート 2020

01. ごあいさつ
02. 事業概要
03. 被災地のいま
04. 奨学金事業
05. 奨学生レポート
06. 奨学生インタビュー
07. かつての奨学生を訪ねて
08. 被災地から「ありがとう!」
09. 被災地から「ありがとう!」
10. あのときを振り返って、そしていま
11. ご支援をいただいた皆さま
12. 会計報告/ご協力方法
13. 私たちが10年間で取り組んだこと

# 被災地のいま

## 震災の記憶が残る最後の世代だから

東日本大震災から10年が経ち、震災の記憶をとどめるための遺構や施設、記念碑が各地にできています。地震と津波で4階まで被災した気仙沼向洋高校も遺構となり、伝承館として多くの来館者を受け入れています。この伝承館で震災の語り部として活動する学生の熊谷樹さんに、震災を伝え継ぐことへの思いを伺いました。



熊谷樹(くまがいたつき)さん。2020年度気仙沼向洋高校卒業。自動車整備士を目指し専門学校に通うかわら、伝承館で月に数回ボランティアで震災の語り部をしている

## 家族の判断に助けられた

「小学2年生のとき、遊びに行っていた友だちの家で震災が発生。あまりに大きな揺れでパニック状態となり、走って家に帰ろうとしました。一方、家にいた家族は車で避難しようとしたものの国道が渋滞し、出かけていた僕と合流するためにも徒歩で避難することに。その判断をしたのが、チリ地震津波などの経験がある祖父でした。もし家族が車で避難していたら、もし僕だけが家に戻っていたら、家と一緒に流されていたかもしれません。そのときは家族の判断に助けられました」

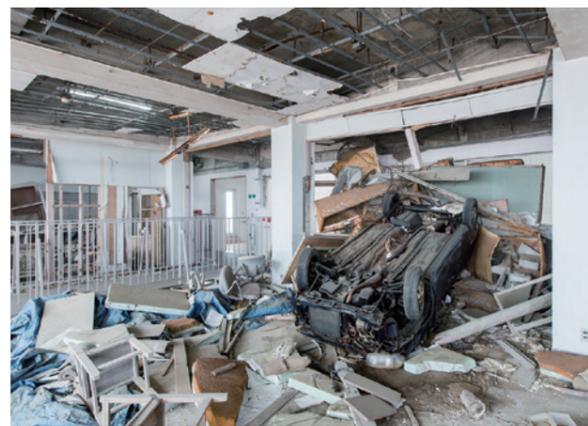
## 誰かの命を守るために

「震災は忘れることができない、というより、忘れてはいけないという思いできました。ただ、とても恐ろしい体験だったので、なかなか心の外に出せなかった。でも、石巻で語り部をしている方の話をニュースで聞き、考えが変わったんです。自分の経験を伝えることは、まだ経験していない誰かの命を守るにつながる。それで、伝承館で語り部をすることにしました」

## 伝承館で伝えたいこと、これから

「伝承館を訪れる同世代は、必ずしも防災に興味のある人ばかりではありません。でも、僕も津波避難の知識がなく

危険な目に遭ったので、皆さんにもぜひ『自分ごと』として考えてほしい。災害が起こったとき危険に晒されるのは自分なんです」  
「高校生のとき、地域防災リーダー育成事業で、広島と西日本豪雨の被災地、岡山に行きました。広島では原爆を伝承する人がいて、岡山では高校生が町の清掃をしたり、クラウドファンディングで資金を集め町の復興に寄与したりしていました。災害のピンチをチャンスに変える形になっています。僕らは震災の記憶が残っている最後の世代です。だから、僕らが使命感を持って、ピンチを復興や防災のチャンスに変えるため、震災を伝えていきたいと思っています」



▲ 遺構として瓦礫が散乱したまま残されている。3階の校舎にまで車が流れ込んだ

▼ 4階まで破壊された校舎。南側にあった冷凍工場が流され外壁に当たった跡がある

## 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館

震災で被災した宮城県気仙沼向洋高校の建物を遺構とし、地震と津波の記憶をとどめ、防災の課題と教訓を伝承するため一般公開している。震災当時、同校の生徒・教員は全員無事に避難し、学校は別の場所に移転した。



<https://www.kesenuma-memorial.jp>

## 写真で見る

# 10年目の被災地

震災の記憶をとどめたまま、まちは活気を取り戻しつつあります。未来へと復興を続ける被災地のようすを紹介します。



## 三陸沿岸が南北につながった

宮城県仙台市から青森県八戸市まで全長359kmを結ぶのが三陸沿岸道路。震災後10年での開通を目指して工事が進められ、2021年12月に全線開通した。各市街地からのアクセスがよく、災害時のために避難階段を設置するなど、復興や防災面でも工夫が凝らされている。写真は復興のシンボルとなった気仙沼湾横断橋を走る三陸沿岸道路。

写真提供:国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所



## 被災者のための新たな住まい

国の補助を受け、自治体が安価な家賃で提供する災害公営住宅(復興住宅)。自宅再建が難しい被災者の住まいとして、岩手、宮城、福島3県で約3万戸が整備されている。



## 全国からカツオ船が結集

25年連続で生鮮カツオの水揚げ量日本一を誇る気仙沼港には、全国からカツオ船が集結する。2021年はとくに豊漁が続き、昨シーズンの2倍以上の水揚げとなった。



## 復興するまちの産業

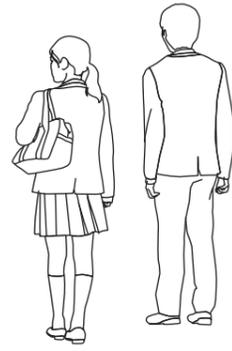
各地で漁業をはじめとする産業が元気を盛り返している。岩手県大槌町では2021年秋、「おおつちまるごと復活まつり」と題して第23回産業まつりが開催された。地域ごとに伝わる虎舞や大神楽などが披露されたほか、メカジキの解体ショーや、その後の模擬セリと特売にも大勢の町民が湧いた。

写真提供:大槌商工会

# 奨学生レポート

震災で被災された方々の生活再建は、この10年間、決して容易ではありませんでした。そんな中で成長してきた子どもたちの学校生活を支えてきたのが、ユネスコ協会就学支援奨学金です。今年も、未来へと大きく夢を描く奨学生たちの声をお届けします。

※昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインでの取材となりました。  
※奨学生とご家族のお名前はすべて仮名です。



## 野球を通して 全国の人たちに 元気と感動を伝えたい

山村 浩司さん(仮名)  
山形県山形市 高校1年生

山村浩司さんが野球を始めたのは小学1年生のとき。以来、16歳になったいままでも野球一色の毎日をおくってきました。岩手県山田町で生まれ育った浩司さんは、震災と津波によって住む家を失いました。そのため、しばらくは家族とともに高台にある祖父母の家で暮らし、やがて仮設住宅へ。そんな中、兄と一緒に町の少年野球クラブに入ったのが始まりです。中学では陸上部に入ったものの、クラブチームで硬式野球をやっていました。そして2021年、山形県にある野球の強豪校に進学。慣れない寮生活をおくりながら、授業と野球部との両立に頑張っています。「練習は相当きついですけど、仲間が声をかけてくれるから、『自分だけじゃない、仲間も苦しいから頑張っていこう』と思えるようになりました」

朝練と放課後の練習は毎日、土日も試合や練習があるという厳しい日々。それでも、お互いに高め合える仲間がいるから野球が楽しいといいます。

浩司さんが専攻している体育科では、体育の授業だけでなく、人間の体について学ぶスポーツ概論をはじめ、パソコンを使う授業などがあります。苦手な数学も含めて、



守備はショート。陸上競技も好きで、走りの速さが野球に役立っている



「将来は野球のトレーナーか指導者になりたいです」

部活と同じように勉強をしっかりとやっていると話してくれました。

### 甲子園へかける思いとは

浩司さんの高校は、過去に4回も全国高等学校野球選手権大会に出場した実績があります。浩司さんの目標も、もちろん甲子園に出場すること。その目標には、心に秘めた思いがありました。

「全国の人たちに、野球を通して感謝の気持ちや感動を伝えられるようなプレーをしたいです。そして、東北から、被災地だけでなく全国を元気づけたいと思っています」

寮生活での楽しみは、と尋ねると「洗濯物をたたむこと」という意外なこたえが返ってきました。日々、汗と土で汚れるユニフォームを洗濯し、それを自らたたむのが新鮮だったようです。休日に友だちと遊びに行きたいわけでもない。野球ができることが、ただ嬉しいという浩司さん。「いま野球ができるのは、寄付して下さった皆さまのおかげです。そのご恩を、自分は野球でしか返せないと思っています。だから、必ず甲子園に行って、必ず日本一になって、必ずご恩を返していきたいです」

夢は、野球部を引退した後も、野球に関わる仕事に就くこと。そして、野球人口を増やしていくこと。野球ひと筋の青春が続きます。

## 航海実習を経たことで 海での仕事が目標に

森下 麻由さん(仮名)  
宮城県気仙沼市 高校2年生

森下麻由さんが通う高校には海洋関係のクラスがあり、麻由さんはその2年生。秋には40日間もの航海実習で小笠原まで行って来たそうです。航海では同級生たちと、延縄で獲ったマグロの尻尾に穴を開けて縄を通したり、皆の食事をつくったり、夜中には3時間交代で見張りをしたりと、さまざまな作業に取り組みました。

「大変なことも多かったけれど、同級生と40日間も一緒にいるのが楽しくて、航海が終わったときは寂しかったです。皆で頑張ったという感じで、達成感がすごかったです」

長期航海という得難い体験を通して、麻由さんには将来の夢が見えてきたといいます。

「船で働きたくて、公務員になって調査船に乗りたいと思うようになりました」

魚の状態を調べたり、水質調査をしたりというのが調査船での仕事。それに近いことを実習で経験し、興味が湧いたのだといいます。目標ができたことで、勉強にも張り合いが出てきました。3年生になったら、小型船舶やダイビングの免許を取るつもりだとか。一緒に勉強を頑張る友だちもいて、学校生活がとても楽しいと話してくれました。

### ゼロからのスタートだったけれど

震災が起こったのは、麻由さんが幼稚園を卒園間近のところ。2人の弟と一緒に、母の菜穂さんが運転する車で家へ帰る途中のことでした。車が渋滞し、「(津波が来たら)このままでは流される」と咄嗟の母の判断で、観光物産施設の



「海の近くで育ったから、船での仕事は身近に感じています」

屋上駐車場へ。「そのときのことは鮮明に覚えています。屋上の小部屋に知り合いがいて、おにぎりをもらいました。何が起っているのかわからず、大人の人たちが泣いていて、小部屋から出たら雪が降っていて寒くて…。弟たちが小さかったので、なぜか強がって『泣けないな』と我慢していました」

もらったおにぎりは結局、最後まで食べる気になれなかったそうです。

当時、麻由さんの家族が住んでいたのは、甚大な被害を受けた南三陸町。震災前、父の直光さんは、自宅の井戸に高圧洗浄機で麻由さんと弟たちの名前を書いてくれました。津波で流された家を震災後に訪ねると、井戸とその名前だけが残っていたそうです。思い出いっぱい南三陸町の家は、麻由さんにとっていまも大切な場所です。

この10年は長かったけれど、震災ほど辛いことはなかったという麻由さん。

「震災後はゼロからのスタートでしたが、それでも、皆と同じように制服やジャージを着られるのは当たり前ではないと思います。この奨学金に協力して下さった皆さんに感謝しています」

「大好きな場所は震災まで住んでいた南三陸町の家。でもいまは、気仙沼が私のふるさとです」



# かつての奨学生を訪ねて

本奨学金事業は2011年の震災直後に始まり、これまでに東北3県の約4000人が対象となりました。かつての奨学生たちはその後、震災の記憶を乗り越え、どのように成長してきたのでしょうか。なりた自分に向かって、それぞれの道を歩む二人にお話を伺いました。

## 大好きな英語の楽しさを子どもたちに伝えたい

兼澤 桃花さん  
岩手県大槌町 小学校教員  
奨学金受給期間 2011～2013年

岩手県大槌町で育った兼澤桃花さんは、2021年春に同町の小学校教員になったばかり。もともと勉強が好きで、中学生のころから学校の先生に憧れていたそうです。その思いがより強くなったのは、震災を経験したからかもしれません。

「先生方が私たち子どもを守ってくれたという思いがあります。通っていた学校が被災したため、他校に間借りしたり仮設校舎となったりしましたが、学ぶ機会をすぐに確保してくださって、すごいなあという気持ちが高まりました。それに、学校があると友だちに会えるし、一緒に遊べるし、おしゃべりもできる。被災後の混乱の中で、学校は楽しい場所として心の拠り所になっていました」

高校生になると、担任の先生のおかげで英語の面白さに目覚め、さらに、企業の東北支援プログラムでアメリカへの短期留学も体験。たくさんの刺激を受けて、英語教師を目指すようになります。大学院では英語教育を専攻しました。

「毎日、子どもたちの笑顔に会えることが元気の源です」



「高校1年のとき、企業の支援により3週間アメリカで学んだのが大きな刺激となりました」

「卒業後、中学や高校ではなく、小学校の教員を選んだのは、自分から進んで楽しく英語を学ぶ子どもたちを育てるには、小学校がいちばんだと思ったからです」

英語について自身が体験し、勉強してきたことを子どもたちに伝えられるのがとても楽しいといいます。英語を好きになる機会になればと、いまは年間を通してスピーチに力を入れているそうです。

## どんなときにも笑顔で元気に

桃花さんが震災に遭ったのは中学2年生の終わり。日本ユネスコ協会連盟ではその年のうちに本奨学金事業を立ち上げ、桃花さんは1期目の奨学生となりました。

「自宅は大規模半壊でした。いま私が教師をしているのは、それでも勉強し続けられる環境があったから。それは、家族や先生、そして震災当時ご支援くださった皆さまのおかげです。いまの奨学生たちも、一度も会ったことがなくても、見守ってくれる方々がいらっしゃいます。だから勉強し続けてほしい。そうすることで、将来の選択肢や可能性がどんどん広がるんです」

そうやって自身も可能性を広げてきた桃花さん。教師になったいまも、一方的に教えるのではなく、子どもたちと一緒に考えることで、いろいろな見方を知りたいといいます。「教員1年目なので大変なこともあります。こんなに疲れていても、子どもに会えばなんだか元気になる。子どもにはパワーがあるんだと思います」

そんな子どもたちのために、いつも笑顔で元気いっぱいの教師を目指しています。



## 自動車整備士という目標に向かって

渡邊 圭介さん  
宮城県気仙沼市 専門学校1年生  
奨学金受給期間 2018～2020年



「強く印象に残っている震災の記憶は、近くの川から黒い水がどんどん学校側に迫ってくるようすです」と語る渡邊圭介さん、震災のときは小学2年生でした。全校生徒で高台に避難し、ものの5分か10分で目にした光景だそうです。まもなく津波は校舎に押し寄せました。

「避難していなければ、津波に飲み込まれていました。家族も無事でしたが、気仙沼の鹿折にあった家は流されました」

親戚の家を転々とした後、一家は仮設住宅へ。そのまま圭介さんが中学3年生になるまで、家族4人での仮設暮らしが続きました。その後、鹿折の土地に盛り土をして家を建て、ようやく自分の部屋ができたといいます。そのころ奨学生となった圭介さん、奨学金は高校の入学資金や、入部したバスケットボール部のユニフォーム、バッシュなどに活用されたそうです。

「奨学金にご協力いただいた皆さまには、どんな形でもいから恩返しをしたいと思います。いまの奨学生の方々にも、感謝の気持ちを忘れてほしくないです。そして、自分の目標に向かって頑張ってください」



地元、鹿折は津波の後、火災が広がり壊滅的な被害を受けた。その記憶を留めるために建立された「津波記憶石」の前で。



「自分は高校を卒業できて、いまは整備士を目指しています。いろんな人たちのおかげでここまで来れたんだと思います」

## いつか乗りたいスポーツカーがある

圭介さんはいま、自動車整備士を目指して専門学校で学んでいます。もともと車が好きで、車に関係する仕事に就きたいと思っていました。その思いが、整備士というはっきりした目標となったのは、父と車のディーラーを訪ねたときでした。

「整備士さんが着ていたつなぎの右腕に、国家1級整備士とトヨタ1級整備士という2つのワッペンが見えたんです。その方はお客さんへの対応がていねいで、仕事の手際もよく、自分もこんな整備士になりたいと思いました」

1級整備士の資格は確かな知識と技術力の証です。圭介さんには、その2つのワッペンが誇らしく見えたのでしょうか。来年、まずは国家2級整備士の資格を取り、整備士となるのが第一の目標。そして働きながら技術を磨き、1級の資格を取りたいと考えています。

「自分は勉強があまり得意でなかった。整備士を目指すといったとき、友だちに『勉強ができないとダメだよ』とよくいわれました。だから、勉強が苦手でも、目標を持って努力すれば1級整備士の資格が取れるんだ、ということを実現したいです」

整備士になっても、気仙沼で働きたいという圭介さん。少しでも街が活気づき、地元の人たちの手助けになれば、というのがその理由です。そして、整備士を目指したときからずっと憧れていたスポーツカー「トヨタ86」に乗るのが夢、と語ってくれました。



被災地から  
「ありがとう!」

生き生きと学校生活をおくる奨学生と、  
保護者の方々から寄せられたお便りをご紹介します。  
※地域・学年は2020年度のものです。

学校再開から半年が経ち、無事に2学期を終えることができました。皆様の温かいご支援に感謝いたします。高校の授業ではレポートの作成やグループディスカッションなど主体的に学ぶ機会が多く、日々の学習がとても楽しいと感じています。部活動は書道部に所属しており、秋に出品した作品が入賞しても嬉しかったです。仲間にも恵まれ、静かに自分の書と向き合うことのできる喜びを実感しているところです。今後は現在のクラスメイトと過ごす時間も大切に、良い年度の締めくくりを迎えたいです。先の見えぬ不安な状況ではありますが、皆様もお体には十分お気を付けてお過ごしください。いつも本当にありがとうございます。

宮城県仙台市・高1・女子



岩手県陸前高田市・高1・女子

奨学生  
から

保護者  
から

募金をしていただいている皆様のおかげで、息子は学校へ通うことができています。いただいているお金は、通学用の電車の回数券や寮生活に必要な日用品などに使わせていただきます。

息子も、世の中で困っている人を助けられる人になるよう、学校でしっかり勉強や職場体験をしてほしいと思います。

宮城県女川町



岩手県陸前高田市・高2・女子

私は小さいころから保育士になりたくて、中学校でも一生懸命、勉強を頑張ってきました。高校に入ったらいま以上に勉強をして、夢に向かって頑張りたいと思います。奨学金ではリュックや制服、定期券など高校に必要なものを購入したいと思っています。大切に使用させていただきます。

震災から10年が経ちましたが、いま感じることは「命の大切さ」です。命があればいろいろな方々に支えられながらも生活ができ、夢を見ることもできます。けど、できなかったたくさんの命もあります。私は生かされた命を大切に日々を過ごしたいと思います。

宮城県南三陸町・中3・女子



令和2年4月8日、時間短縮ではありましたが、無事に入学式を終え、新生活が始まりました。

これから始まる高校生活、期待と不安で胸がいっぱいですが、我が子だけでなく、共に過ごす友達と一緒に、かけがえのない3年間になると確信しております。

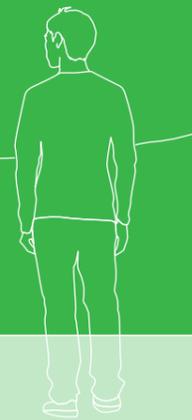
健康一番に、今まで以上に、勉強や部活など充実した高校生活を送っていただければと思っております。

この就学支援奨学金に、善意のご寄附を寄せてくださった皆様に、心より感謝申し上げますと共に、今後とも、被災地で育つ子ども達をあたたく見守り、応援していただければ幸いです。

岩手県大船渡市

—震災から10年—  
あのときを振り返って、そしていま

かつての奨学生からも、震災当時のことや今後への思いなどをアンケートでお寄せいただきました。



Q1. 10年を振り返り、いまの思いを聞かせてください。

**震災当時7歳 宮城/男子** 震災当時は自宅が流出し、4月に小学校入学を控えていたため、ランドセルや机など、準備していたものがすべてなくなり、どうやって学校へ行くか…とぼうぜんとしたことを思い出します。ですがランドセル、入学式の服などは支援物資でいただき、とても前向きになれました。全国の応援していただいた方々にすごく感謝しています。

**震災当時小6 福島/女子** 日常の大切さ、自然の大切さ、自然のおそろしさを、身にしみて感じました。いまは海がとてもきれいに見えます。

Q2. 近況を聞かせてください。

**震災当時小4 宮城/女子** いま、気仙沼市にある水産加工メーカーで事務の仕事をしています。高校を卒業してすぐ就職を選んだのは、家庭の経済的な理由もありますが、一番は、地元をもっと身近に感じたかったからです。若い人は、地元を離れていく人が多いですが、気仙沼には魅力がたくさんあると思います。気仙沼のことをもっと全国の人に知ってもらえるよう、いまの仕事を通して発信していければいいなと思っています。

**震災当時小5 福島/女子** 現在は東京の大学に通っています。大学生になってからも、地元大熊町と関わる機会があり、小学校以来会っていなかった同級生と会ったり、新しく知り合う人もいたり、住めなくなった地域でも自分の中で交流の輪が広がっており、前よりも震災と前向きに向き合っていると思います。コロナ禍ではありますが、大学生活もオンラインと対面授業を併用し、充実した生活を送れています。

Q3. いまの奨学生に向けてメッセージを!

**震災当時7歳 岩手/男子** 震災から10年という月日を迎え、さまざまな思いを抱えているとは思いますが、あきらめず前を向いて、夢ある未来のために頑張ってください。

**震災当時中2 宮城/男子** 周りの人への感謝を忘れず、夢に向かって頑張ってください。皆さんが大人になったとき、困っている人に手を差し伸べられる優しい人になっていることを願います。

**震災当時小2 岩手/女子** この奨学金のおかげで、充実した学校生活を送ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんも勉強、部活、将来の夢を叶えるために大切に使用してください。そして頑張ってください。

# 2020年度も皆さまから多くのご支援をいただきました

ユネスコ協会就学支援奨学金は、以下の企業・団体をはじめとする多くの皆さまからご協力をいただきました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	 アクサ生命 アクサ生命保険株式会社	 旭酒造株式会社	 NTTドコモグループ 災害復興等応援社員募金
 カクタス・コミュニケーションズ株式会社	 株式会社光明工事	この街と生きていく  一般社団法人 全国信用金庫協会	 日本ホテル株式会社
 東日本旅客鉄道株式会社	 フォーエバーリビングプロダクツ ジャパン	 ブルーチップ株式会社	 株式会社ベルセラージュ本社 <small>※50音順・敬称略</small>
 株式会社ほるぷエーアンドアイ	 三菱UFJニコス株式会社	ポイント交換・ポイント募金のメニューから「ユネスコ協会就学支援奨学金」への支援を選択してご協力いただけます。	

## ご協力いただいた皆さま

### 個人募金者の皆さま

全国の個人募金者の方々から多くのご支援をいただきました。

### 企業・団体の皆さま

上記でご紹介しきれなかった企業・団体の皆さまから多くのご協力をいただきました。

### 子どもたちから子どもたちへ

幼稚園から大学まで、子どもたちや学生の皆さまからも、心のこもったご寄付が寄せられました。

### ユネスコ協会・ユネスコクラブ会員の輪

ユネスコ協会・クラブも継続した支援活動を行っています。また、維持会員・賛助団体会員・個人会員の皆さまからも、ユネスコ精神のもと温かいご協力をいただきました。



#### ご協力いただいたユネスコ協会

朝日生命ユネスコクラブ、石狩ユネスコ協会、伊丹ユネスコ協会、認定特定非営利活動法人市川市ユネスコ協会、小樽ユネスコ協会、各務原ユネスコ協会、北上ユネスコ協会、釧路ユネスコ協会、四国中央ユネスコ協会、清水ユネスコ協会、高崎ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、西宮ユネスコ協会、花巻ユネスコ協会、光ユネスコ協会、松山ユネスコ協会、室蘭ユネスコ協会 ※50音順

## 2020年度会計報告

### 東日本大震災子ども支援募金事業（2020年4月1日～2021年3月31日）

#### ユネスコ協会就学支援奨学金

項目	金額(単位:円)
前期繰越	292,889,219
寄付額	106,413,053
支出額	138,938,949
①奨学金	122,280,000
②事業経費	16,658,949
次期繰越	260,363,323

※ユネスコ協会就学支援奨学金は、原則として、奨学生1人につき3年間にわたって支援します。  
 ※次期繰越金は、2019年度に採用した奨学生の3年目分の給付に係る事業費用および2020年度に採用した奨学生の2～3年目分の給付に係る事業費用、そして2021年度に新規採用する奨学生の3年間分の給付に係る事業費用などを含む2021年度以降の本奨学金事業に使用されます。

## ご協力方法

### 子どもたちの高校進学を支える奨学金

## 東日本大震災子ども支援募金

### ユネスコ協会就学支援奨学金

子どもたちが未来に夢を描けるよう、支援を続けてまいります。皆さまからの募金で子どもたちへの奨学金を継続することができます。引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

※日本ユネスコ協会連盟へのご寄付は、寄付金控除などの対象になります。



#### 銀行振り込みによる募金

以下の「ユネスコ協会就学支援奨学金」の専用募金口座までお願いいたします。

三菱UFJ銀行 神田支店 普通 0297275  
 シャ)ニホンユネスコキョウカイレンメイ

※領収書が必要な方は、大変お手数ですが、日本ユネスコ協会連盟までご連絡ください。

#### 郵便振り込みによる募金

ゆうちょ銀行または郵便局からご寄付いただけます。このページに挟み込みの払込取扱票をご利用ください。

#### インターネットからの募金

ホームページからクレジット決済による募金をお申込みいただけます。

ユネスコ  検索   
[unesco.or.jp](https://unesco.or.jp)

#### 毎月の継続的な定額募金『月1・いいことプログラム』

##### クレジットカードの場合

ホームページから直接お申込みいただけます。

月1いいこと  検索   
[unesco.or.jp](https://unesco.or.jp)

##### 口座振替の場合

口座振替申込書をお送りします。お手数ですが、ご希望の方は当協会連盟までご連絡いただけますようお願いいたします。

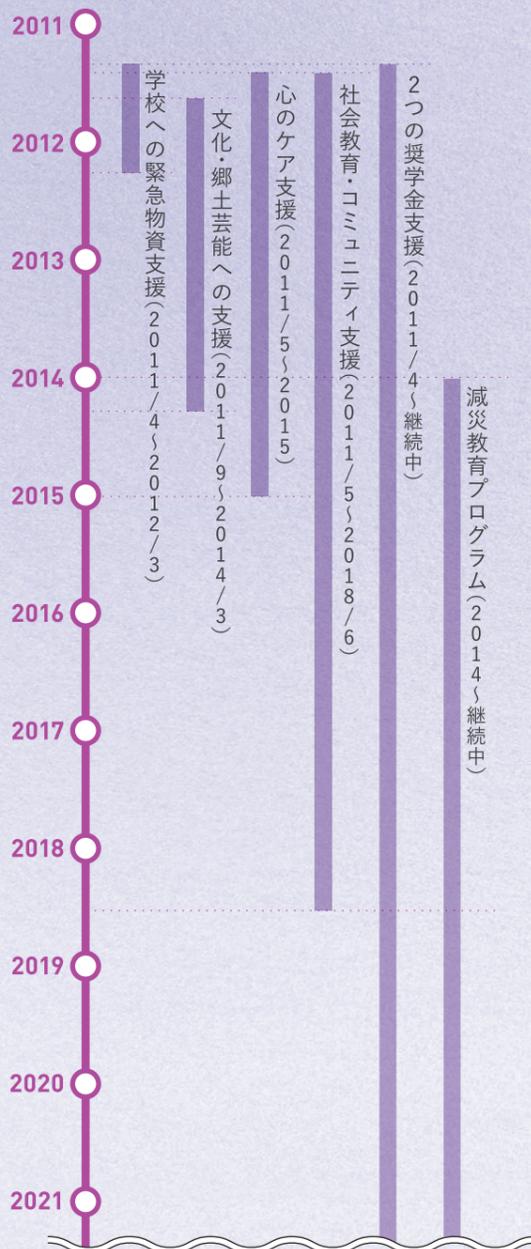
#### お問い合わせ

〒150-0013  
 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階  
**公益社団法人日本ユネスコ協会連盟**  
 TEL: 03-5424-1121 (9:30～17:30/土・日・祝日を除く)  
 FAX: 03-5424-1126  
 メール: [nfuj@unesco.or.jp](mailto:nfuj@unesco.or.jp)

# 私たちが 10年間で 取り組んだこと

2011年3月11日の地震とその後の津波によって、多くの子どもたちの教育環境が危機に陥りました。日本ユネスコ協会連盟は、被災地の現場の声を大切に、復興の担い手となる子どもたちのためにさまざまな教育復興に取り組んでまいりました。

## 東日本大震災子ども支援の主な活動



### 支援活動 01 学校への緊急物資支援

学校を再開するために、まず行ったのが緊急物資支援でした。被災により学習に必要な備品が流失してしまったため、144校・2教育委員会に対し、学校のニーズにあわせて、教材や体育用品などの支援物資を届けました。また、仮設住宅や避難所と学校をつなぐスクールバスも支援しました。



### 支援活動 02 文化・郷土芸能への支援

震災によって危機に瀕した東北の祭り・文化を救ってほしい。そんな被災地の声を受けて、失われつつある日本の自然・文化を未来へ伝える「未来遺産運動」の一環として、人びとの気持ちをつなぐ郷土芸能や祭りへの物資支援を実施しました。



### 支援活動 03 心のケア支援

地震と津波への恐怖から強い不安を抱いている子どもたちの、心理的ストレスをやわらげるために、夏休みにキャンプや絵画コンテストなどを実施しました。



### 支援活動 04 社会教育・コミュニティ支援

被災地では、仮設住宅で暮らすなど、生活環境が大きく変化しました。被災地のコミュニティ再生を目指して、コミュニティ図書館、学童保育所、移動図書館車、相撲場などを支援しました。



### 支援活動 05 奨学金支援 ユネスコ協会就学支援奨学金

経済状況が悪化したご家庭の子どもたちが安心して学校に通えるように、返還不要の奨学金を3年間にわたって支援する活動を行っています。支援を必要としている子どもたちのために、皆さまからの募金のご協力をお願いいたします。



### 支援活動 06 奨学金支援 MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

両親もしくはいずれかの保護者が死亡・行方不明になってしまった子どもを対象とした、返還不要の奨学金を支援しています。その他、TOMODACHI・MUFG国際交流プログラムなど、子どもたちの心豊かな成長を応援する支援も行っています。



### 支援活動 07 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげるために、学校への活動助成、教育研修会、実践報告会、減災教育フォーラムを実施しています。



新規事業が始まります

## 「災害子ども教育支援」で子どもたちの学びを未来へつなぐ

日本ユネスコ協会連盟ではこの10年間、予期せぬ災害に見舞われた子どもたちが、経済的な理由で夢や進学をあきらめることがないように、支援を続けてまいりました。地球環境の変化に伴い、これからもさまざまな自然災害が起こり得ます。そこで、災害によって子どもたちの学びが妨げられないよう、今後起こる災害を対象に、被災地の教育復興を支援する「災害子ども教育支援」事業を開始いたします。

#### 支援内容

- ①被災地の学校等に対する教育復興のための支援
- ②被災地の子どもに対する給付型の奨学金支援
- ③復旧・復興作業を支えるユースによるボランティア活動に対する旅費の一部補助

※本事業における支援対象(災害規模、対象者、内容など)の詳細は別途定めたガイドラインに基づき実施します。

持続可能な活動によって、子どもたちの学びを未来へとつなげていく。その思いで始めるこの事業。皆さまのあたたかいご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

#### ご協力方法

本レポート添付の払込取扱票をご利用ください。詳細は近日ホームページでご紹介します。  
[www.unesco.or.jp](http://www.unesco.or.jp)



# 日本ユネスコ協会連盟の活動

私たちは「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と謳<sup>うた</sup>う国際連合教育科学文化機関（UNESCO）の理念に賛同し、全国に約280あるユネスコ協会・クラブとともに1947年から草の根で活動を続けるNGOです。

平和な世界を構築し持続可能な社会を推進することをミッションに掲げ、国内外でさまざまな活動を展開しています。国連が提唱する持続可能な開発目標＝SDGs（Sustainable Development Goals）のうち、とくに目標4「質の高い教育をみんなに」を重点ゴールに据え、達成に向けて以下のような事業に取り組んでいます。

※2020年度の活動については別冊「2020年度活動レポート」をご覧ください。

## 返還不要の奨学金による 学びの支援

東日本大震災子ども支援



## 学校における 減災教育をサポート

アクサ ユネスコ協会  
減災教育プログラム



## 学校との連携を通じた SDGs教育の充実

SDGs達成に向けた次世代教育



## 日本の自然や文化を守り伝え、 持続可能な地域社会に貢献

未来遺産運動



## 専門的な技術者の養成、 途上国の子どもの文化学習を促進

世界遺産活動



## 途上国の学びを支える さまざまな教育支援

世界寺子屋運動



公益社団法人  
日本ユネスコ協会連盟



日本ユネスコ協会連盟ホームページ  
<https://www.unesco.or.jp>